

Ⅲ. 派遣

派遣に関するロータリークラブ対応方法、志望学生がなすこと、地区青少年交換委員会がどのような関わりをもつか説明します。

1. 募集（地区委員会・学校・各ロータリークラブ）

1) 地区青少年交換委員会は、ガバナーエレクト（次年度地区ガバナー）と協議を行い次年度派遣学生の人数、派遣国について決定します。

2) 地区委員会は上記決定に基づき募集要項を作成します。

募集要項、宣伝用ポスターを作成し、3月下旬を目途に、地区内各ロータリークラブ、高等学校に配布します。

◆青少年交換プログラムに参加する高等学校の対応

・ 宣伝用ポスターを構内に掲示し期日までに広く希望者を募集していただきます。

◆プログラムに参加するロータリークラブの対応

・ 青少年交換委員を設け、応募者が当プログラムの目的に沿って派遣候補生となり得るかどうか検討していただきます。

2. 応募（学生・保護者）

1) 募集要項に記載されている要項を理解のうえ、各高等学校担任またはロータリー担当の先生に申し出て学校長の推薦を得ます。

2) 応募するにはスポンサークラブになってくれるロータリークラブが必要です。**※必須**地区内のいずれかのロータリークラブにアポイントを入れ、クラブの会長及び担当者（クラブにより異なる）の面接を受けてください。

その際、応募用紙（同じものを2通）に必要事項を記載のうえ持参してください。

3. 応募資格（学生・保護者）**※1～10の全て必須**

1) 応募時点の年齢が15歳以上17歳以下の高校生（1～2年生）で、R I 第2770地区内に居住または同地区内高等学校に在学中の日本国籍を有する者。ただし中高一貫校の学生に限り高校学校長の承諾があれば中学3年生（14～15歳）も応募可能。

- 2) 交換留学について保護者の承諾が得られる者。
- 3) 保護者が来日学生のアホストファミリーになることの承認が得られる者。
- 4) 在学高校の校長推薦が得られる者（＝来日学生のア受入協議ができること）。
- 5) 現在心身ともに健康であり海外生活に積極的に参加する意欲のある者。
- 6) 派遣国・地区について、地区青少年交換委員会の決定に異議を唱えない者。
- 7) 世界情勢や派遣国の情勢、天災、パンデミック等の影響により派遣前および留学中に交換留学中止があっても異議を唱えない者。
- 8) RI第2770地区内いずれかのロータリークラブのスポンサー承認を得られる者。
- 9) 派遣前の1年間、地区青少年交換委員会主催のオリエンテーションに全て出席できる者。
- 10) 帰国後数年間、ROTEX（本書6ページ ※3参照）として青少年交換プログラムのサポート活動に積極的に参加できる者。

4. 応募内容の確認（スポンサークラブ）

応募者の面接を実施後、応募用紙の提出を受けたクラブ現年度会長およびクラブ担当者は応募用紙の以下事項を確認してください。

- 1) 学校担任の所見と署名、捺印があること。
- 2) 本人、保護者の署名、捺印があること。
- 3) その他本人が記入すべき項目に漏れがないこと。

確認後、応募用紙2部のうち1部をスポンサークラブ保管とし、1部を第2770地区ガバナー事務所に送付してください。

5. 選考試験（学生・保護者）

- 1) 8月に選考試験を行います。
 - 一次試験：筆記試験（英語・一般常識・グループディスカッション）
 - 二次試験：保護者同伴面接（日本語）・英会話面接英語試験については英検3級程度の内容とします。
- 2) 合否については、9月末頃に、本人、学校、スポンサークラブに通知します。

6. オリエンテーション（地区委員会・派遣候補生・保護者）

- 1) 地区青少年交換委員会は、派遣候補生決定から海外への出発まで（10月～翌年6月頃まで）毎月オリエンテーションを実施します。派遣候補生および保護者は全てのオリエンテーションに参加義務があります。
- 2) オリエンテーション内容について
 - ①ロータリーの知識、青少年交換プログラムの目的の理解。
 - ②英語で自己紹介、日本の生活習慣、歴史、文化などについての簡単に説明ができるようにする。
 - ③英文アプリケーションフォーム（APF、本書7ページ ※4参照）の作成。
 - ④外国生活に関する情報取得。
 - ⑤月次報告書等、近況報告の要領。
 - ⑥渡航に関する諸注意、旅行代理店による渡航手続き等。
 - ⑦常識ある日本人としてのマナー習得。
- 3) オリエンテーションにはROTEX（交換留学の先輩、本書6ページ ※3参照）も参加します。彼らと多くのコミュニケーションを取り、その体験談やアドバイスなどから留学についての事前知識をたくさん得てください。
- 4) 地区大会、キャンプ、壮行会、フェアウエルパーティ等の各種行事に出席し、来日学生との交流を深めます。

7. 派遣先地区の決定（地区委員会）

地区委員会は、合格した学生について派遣地区を決定します。

派遣先については、参考のために派遣候補生の希望をヒアリングしますが、相手国の事情等も勘案しての決定となりますので、委員会の決定に従っていただきます。**※必須**

8. 英文アプリケーションフォーム作成と送付（派遣候補生・地区委員会）

- 1) 英文アプリケーションフォーム（APF、本書7ページ ※4参照）の作成は、相手国地区への紹介を兼ねています。派遣学生の性格、生活環境など判断される重要な書類です。
- 2) 派遣先相手国・地区とのやり取りは地区委員会のコレポン担当者（本書7ページ ※4参照）が行います。

9. 名刺の作成（地区委員会）

派遣候補生の期間中および留学期間中、また帰国後は、様々な会合に出席します。
そのために名刺を作成します。当地区では形式を統一した写真入り名刺を作成します。

10. ブレザー（地区委員会）

派遣候補生全員同一デザインのオリジナルブレザー（各自負担）を作ります。
派遣国例会、公式行事出席の際、帰国報告会等で必ず着用します。

11. パスポート（派遣候補生）

派遣学生の渡航手続きについては、地区青少年交換委員会が指定する旅行代理店の指示に従っていただきます。なお、手続きについては以下のとおりです。

まず、外務省ホームページを参照のうえ、パスポートを取得してください。

 https://www.mofa.go.jp/mofaj/toko/passport/pass_2.html

※パスポート申請に使用した証明写真はその後も必要となります。デジタルデータまたはプリントを10枚程度用意しておいてください。

12. 航空券の購入（派遣候補生）

パスポート取得後、1年間有効の往復航空チケット（オープンチケット）を購入していただきます。地区青少年交換委員会指定の旅行代理店でも購入可能です。

出発日時は、派遣先地区のコレポン担当者と相談して決めてください（メールのやり取りはCCにて地区委員、クラブカウンセラー、ホストファミリーに同報送信してください）。

※出発日が決まり次第、出発便の予約コピーを添付して、第2770地区委員会、両国のコレポン担当者、スポンサークラブに必ず報告してください。

なお、航空券を自己手配される場合、搭乗便確定後の便の変更やキャンセル、また航空会社都合（航空会社の破綻なども含む）による運休、遅延等に対する航空券変更、再購入手続き等について、すべて自己責任となります。

1 3. ビザの申請（派遣候補生・地区委員会）

◆ビザ申請にあたっては、手続き漏れや間違い等を防ぐために、進捗状況を地区担当委員に逐一報告してください！ 万一ビザが取れないと、留学できません！

派遣先国への入国にはビザが必要です。ビザの申請には、派遣先より送られてきた書類が必要となります（G F＝ギャランティフォーム、入学許可書、等）。

書類が届きましたら派遣先国の在日大使館に面接予約をとり、必要書類をもって面接に行きます。

なお、日本国籍の者が海外へ渡航する際のビザについては、渡航先国・渡航目的・滞在期間等によってビザの要否・種類が異なり、国によっては事前通告なしに手続きが変更される場合もありますので、詳細は渡航先国の在日大使館・総領事館に確認し、最新の情報を入手してください。なお、各国の一般的な出入国審査等については、外務省海外安全ホームページの安全対策基礎データでも参照できます。

また、今日ではビザを原則スマートフォンにダウンロードして携帯するという形式をとっている国が多いため、スマートフォンは必須となります。

1 4. 保険（派遣候補生・地区委員会）

全ての派遣学生は、現地での滞在期間中の事故や疾病を考慮して1年間の疾病付傷害保険への加入が義務付けられます。なお、派遣先によっては、その地区の指定する保険に加入することが義務付けられる場合もあります。R I（国際ロータリー）の指針によると、

交換学生の両親または法定後見人は、交換学生をその自国出発から帰国までの期間、

- ・医療費：少なくとも50万米ドルまたはその相当額
 - ・事故死または手足切断：少なくとも1万米ドル以上またはその相当額
 - ・遺体送還：少なくとも1万米ドルまたはその相当額
 - ・緊急輸送または避難の場合：少なくとも5万米ドルまたはその相当額
- を補償する保険に加入しなければならない、とされています。

1 5. バナー及びパンフレット（派遣候補生・スポンサークラブ）

派遣先ホストクラブはもちろん近隣クラブへ招待されることも多いので、スポンサークラブのクラブバナー（※5）を最低10枚は持参してください。

また自分の住んでいる市や町のパンフレットを持参してください（役所に問い合わせると英語の紹介パンフレットがあります）。



参考 クラブバナーの交換

<https://sites.google.com/site/rotary100jiten/rotari-no-iroha/kurabu---banano-koukan---abc>

(※5) クラブバナー

ロータリークラブの多彩な伝統の一つに、小さなバナー、旗、あるいはペナントの交換がある。バナーはそのクラブの地域を示すような絵やスローガンなど、各クラブが独自のデザインで製作している。ロータリアンが遠くの地方に旅し、他のクラブを訪問するとき、友愛の印として交換するためにバナーを持参する。バナー交換は国際的な交友を示すシンボルとしての役割も果たしている。

16. スマートフォンおよびノートパソコン（派遣候補生）

派遣前のオリエンテーションにも、留学時にも、必ずノートパソコンは1台持参してください。各種連絡や資料の配信、留学中の月報提出およびご家族その他との連絡手段として使用します。

スマートフォンは、ホストファミリーの環境にもよりますが、W i e F i 環境が整っている場合にはL I N E アプリ等を活用して国際電話より安価または無料の連絡手段として活用できます。

ホストクラブより格安S I Mの購入を推奨しています。

17. お土産（派遣候補生）

ホストファミリーへのお土産は、あまり高価なもの、かさばるもの、割れ物は避けるべきです。安価で構わないので日本風なもののほうが喜ばれます。例）扇子、こけし、竹細工、風呂敷等々。5円玉に飾りをつけて持参するのもよいでしょう。穴の開いた硬貨は世界では珍しいといわれています。

18. 荷物の発送（派遣候補生）

日本人は、大きな荷物を持っていく傾向があります。なるべく簡単にしたほうがよいでしょう。航空機手荷物の超過料金はかなり高価です。

19. たびレジ・ORRnetに登録する（派遣候補生）

1) 『たびレジ（外務省・海外安全情報配信サービス）』への登録

☞ <https://www.ezairyu.mofa.go.jp/tabireg/index.html>

渡航日程が決まったら、『たびレジ』に登録しましょう。

『たびレジ』は、海外旅行や出張される方が、旅行日程・滞在先・連絡先などを登録すると、滞在先の最新の渡航情報や緊急事態発生時の連絡メール、また、いざという時の緊急連絡などが受け取れるシステムです。メールの宛先として、ご自身のアドレス以外にご家族や職場のアドレスも登録すると派遣先国の情報を共有できます。

2) 『ORRnet（在留電子届出システム）』への登録

☞ <https://www.ezairyu.mofa.go.jp/RRnet/index.html>

派遣先国に到着したら、速やかに『ORRnet』に登録しましょう。

海外に住所または居所を定めて3か月以上滞在する人は、旅券法第16条により、その地域を管轄する日本大使館または総領事館に速やかに在留届を提出することが義務付けられており、ORRnetによる登録が便利です。

IV. 派遣学生へのアドバイス

1. 出発前の心構え

1) 目的

皆さんは、国際ロータリー2770地区と世界各国との交換留学生として選ばれました。その応募目的は人それぞれです。外国語をマスターしたい学生もいるでしょうし、世界中に友達をつくりたい学生もいることでしょう。しかし国際ロータリーの交換留学プログラムに参加する以上、皆さんは「日本を代表する一人の立派な親善大使」なのです。一人一人が世界平和という重要な責務の一端を担っているのです。日本の文化を外国に紹介してください。そして外国の文化を吸収して持ち帰り、日本で紹介してください。現地では、自分が日本を代表している一人であることを忘れず、滞在中は常に日本人として恥ずかしくない行動をとるように努力してください。

2) 国際ロータリー

この貴重な経験ができるのは、すべて国際ロータリーの世界ネットワークがあつてのものです。日本においても派遣先においても積極的に行動し、交流に努め、国際感覚を身につけ、日本と世界のロータリークラブを深く理解するように努めてください。

3) 充実した人生のために

人間は失敗から多くのことを学ぶことができます。失敗を恐れず、言葉の壁を乗り越え、積極的に様々なことにに関わり、日本では体験できないことにもチャレンジし、できるだけ多様な経験ができるように自ら努力してください。そして、人間的にひと回り大きくなって帰国してください。ロータリークラブを通して得た世界の知識と外国での経験があれば、より充実した社会生活、より充実した人生を送れるはずです。期待しております。

2. 留学生として

1) 学校

「交換留学生」という文字が示すように、皆さんは派遣先で学校生活を送ることが大きな目的のひとつです。決められた学校に毎日通うことが大切です。当然、言葉に慣れるまでは、学校の制度が日本とは大きく違うので戸惑いもあり、通学が苦痛に感じられることもあるかもしれません。時には、一人取り残されているような孤独も感じることでしょう。しかし、まじめに通学していれば、徐々に心の通じ合える友達も増えていきます。そしてほとんどの留学生がいつの間にか学校へ行くのが楽しみになっているようです。

2) 授業

はじめのうちは、まったく言葉がわからず授業内容も理解できないことでしょう。しかし、友達との日常会話に慣れてくれば、やがて授業内容も一字一句というよりも、むしろ自然に理解できるようになってきます。分からないからといって勉強を諦めないようにしましょう。ほとんどの派遣学生が、帰国直前のころには、現地高校生と同等レベルで授業を理解できるようになっています。

3. 家族の一員として

1) ホームステイの心構え

交換留学生は、ホームステイをすることによりホストファミリー（家族）の一員になります。決してお客様扱いはされずその家族の子供として扱われます。家族での取り決め、約束事などはしっかり守るようにしましょう。甘えすぎてはいけませんが、逆に遠慮し過ぎないように心がけましょう。ホストペアレントとしての責任上、行動や間違いの注意などをされることもあります。それに対して意見を言うことも大切なことですが、まずは冷静に受け止めるようにしてください。そのうえで、理解してもらいたい事柄はきちんと理由を説明することがとても大切です。

2) ファーストナイトクエスション (First Night Questions)

➡ ※別添資料参照。

派遣学生がホストファミリー宅へ到着した初日の夜に、ファミリーと学生の間で最初に

相談して、取り決めておきたい各項目の例を和文と英文で列挙しております。このようなことを最初に相談しておくことで、ホストファミリーとスムーズに打ち解けられる可能性が高まります。よく相談のうえ、2部作成し、ホストファミリーと派遣学生の双方で持っておきましょう。

3) コミュニケーション

現地ホストファミリーは心を開かない学生を嫌います。言葉が通じようが通じまいが何でも話そうとする態度こそが必要です。誰でも最初は言葉が不自由です。しかし同じ人間どうし、言葉がわからなくても気持ちだけなら通じるものです。まず食後に食器を台所へ運ぶことから始めましょう。そして機会あるごとに何でも「手伝いましょうか?」と、ママやパパの目を見つめて尋ねるようにしてください。

4) 食事

口に合わない食事を一度でも「おいしい」と言ってしまうと、毎日出されることがあります。どうしても食べられないものは、首を横に振って笑顔で「この料理は嫌いです」とはっきり言いましょう。また、せっかくの料理を食べ残すことがないように、おやつの食べ過ぎや体調のせいで食欲が無い場合は「今夜は少しでいいです」とか「明日の朝食は要らないです」などと早めに伝えてください。理由をはっきりということは、家族に心配をかけないためにも重要なことです。

5) 家庭の電話・携帯電話・インターネット・郵便

家庭の電話・インターネットについては、必ず初日にホストファミリーに相談して決めてください。ノートPCは持参必須ですし、ほとんどの学生が留学にスマートフォンも持参することでしょう。多くのホストファミリーにはWi-Fi環境が整っているかと思いますが、その場合でも、時間を決めて利用する、データ量が使い放題なのか従量制のかなど、必ず確認と相談をしてください。Wi-Fi環境があれば、スマートフォンのアプリ等を活用して、国際電話より安価もしくは無料で通話が可能です。

もしWi-Fi環境が無いホストファミリーの場合は、例えば、国際電話の場合にはコレクトコールにする、または、後日請求がきたら自分で支払う、1週間に3分間にするなど、相談して取り決めてください。

また、インターネットや日本への通話などに夢中になり過ぎてホストファミリーとのコ

コミュニケーションが希薄にならないように、なるべくリビングやキッチンでホストファミリーと一緒に過ごす時間を大切にしてください。

郵便や宅配便を託す場合には、代金をきちんと支払いしてください。

6) 洗濯

洗濯については各家庭の事情で異なります。大抵は家族と同じ扱いですが、下着だけは自分で洗いたいものです。まずは自分で洗ってよいかどうか、干すならどこに干せばよいのかなど家族と相談してください。家の中には湿気のものを勝手に干しては迷惑な場所もあるでしょう。水が高価な地域では勝手に水道を使ってはいけない場合もあります。

7) 部屋

部屋はたいいていの家庭で一人に一部屋個室を与えられます。プライバシーを与えられる代わりに重い責任もあります。常に整理整頓して清潔な部屋を心がけてください。もし部屋を散らかしておくと、たった一人のせいで「日本人はだらしない」と決め付けられるだけでなく、その地区は二度と日本からの留学生を受け入れてくれなくなってしまいます。

8) 家族と過ごす時間

普段はなるべくリビングで家族と一緒に時間を過ごすようにしてください。家族から言葉を教えてもらい学校の宿題を手伝ってもらうのも大切なコミュニケーションのひとつです。もし言葉が解らなくて会話が行き詰まっても、家族同士の会話やテレビの言葉を聞いたりしてください。そうすればやがていつの間にか理解できるようになっているものです。「自分の部屋に入ってしまいたい衝動」をどのように辛抱するか、そして、「沈黙に陥った会話」をどう強引に続けてゆくかが言葉を身につけるうえで大きな進歩を生むのです。

9) ホームシック

1年間の留学中にはいろいろな試練が待っています。初めのうちはエキサイティングな毎日ですが、少し現地での生活に慣れてくると急にホームシックを感じる人もいます。こんな時は自分ひとりで耐えて解決しようとししないでください。家族や友達に「今ホームシックみたい」と告げれば何らかの力になってくれます。気を紛らわすよう外出に誘ってくれたり、楽しい会合で気分を晴らしてくれたり。また、カウンセラーに相談して、

現地に住む日本人か、過去に日本に留学していた現地の人を紹介してもらって、時には日本語で会話をするのも効果的なようです。多少言葉は不自由でも家族や友達がいるのだから孤独ではないのです。

10) 乾燥について

冬季の家の中は、とても乾燥します。

就寝する時には、乾燥を和らげるための処置を家族に相談して体調管理を心がけましょう。例えば、加湿器を貸してもらえるか聞いてみたり、就寝時にタオルを濡らして干してよいかなど、許可を取りましょう。

4. ロータリーの留学生として

1) カウンセラーは保護者です

現地ではカウンセラーが保護監督者です。遠く母国を離れた学生に対しての責任はすべてカウンセラーに任されています。責任所在の関係上、通学以外の行動に関しては必ずカウンセラーに相談してください。しかし、そればかりでなくカウンセラーはとても頼りになる相談相手です。派遣先が英語圏でない場合でも、カウンセラーなら大抵は英語が話せます。些細なことはホストファミリーでもいいのですが、気になることは何でも気軽に相談してください。親身になって答えてくれます。病気や事故で保険を使う場合にもカウンセラーに協力を求めてください。また、万一、ホストファミリーや学校に問題がある場合でもカウンセラーが力になってくれるはずです。

2) 「参加する」姿勢が大切です

現地では、カウンセラーを通じてホストクラブへの例会や様々な行事に出席が求められます。積極的に参加して、現地の人たちと直接話をしてみましょう。このときこそ、自分もこの広い世界の中の一人であると実感する瞬間です。また、会合や行事に日本の民族衣装（例えば浴衣など）で参加するように依頼されたり、日本や出身地について現地の言語でスピーチするよう求められることもあります。日本文化の素晴らしさを外国の人々に伝えられるように出発前からしっかりと準備しておきましょう。

3) 地区外行動は控えてください

たとえ日帰りであっても、地区外での行動は関係者の目が届かず、危険も伴ない、誰も責任を負えません。単独か否かにかかわらず、地区外へいくことはなるべく避けてください。旅行等によりやむを得ず地区外へ出る場合には、予めカウンセラーの許可を得てください。また、地区内であってもホストファミリーが同伴しない行事などでは、その内容を事前に把握しきれません。好ましくない集まりへの誘いもありますから、返事をする前に必ずカウンセラーと相談して参加するかどうか決めてください。

4) 禁止事項

4Dルール

ロータリーの交換留学生は、下記4つの「D」が禁止されています。

- ・ D r i v e (自動車、オートバイの運転)
- ・ D r i n k (飲酒)
- ・ D r u g (麻薬、喫煙)
- ・ D a t e (友情を超えた不純異性交遊)

また、ビザの関係などから、学生は収入を伴う勤労やアルバイトも禁じられています。

5) 報告書の提出

日本の第2770地区青少年交換委員会には、毎月指定の月次報告を日本のスポンサークラブのカウンセラーを通じてメールで送付してください。これは留学生の様子を計り知る重要な手段です。何か問題を抱えていたら正直に書いてください。抽象的な表現を書く
と改善策が講じられなくなってしまいます。

6) 帰国に際して

留学期間は1年以内です。帰途に観光などで回り道をせず、直接帰国してください。帰国時の荷物は、SAL便(※6)で出すとよいでしょう。飛行機の携行荷物は概ね20kgまでです。不要と思われる衣類や現地でのお土産などで超過しそうな場合は、早めに日本に送っておきましょう。

(※6) SAL便(サルピン = Surface Air Lifted)

トラックでの陸送と航空機での輸送を組み合わせた国際輸送サービスのこと。AIR便より安価で、船便より早い。

7) 強制帰国

万一、交換留学生在がホストファミリーの指導やカウンセラーのアドバイスを守らない場合には、留学途中であっても強制帰国させられることがあります。過去、留学生仲間と飲酒をしたという理由で強制帰国させられた事例もあります。

8) 帰国後

留学生の皆さんは、きっと充実した1年を無事に終えて帰国することでしょう。しかし、これで終わりではありません。第2770地区主催の帰国報告会やスポンサークラブでの30分間の経験談の卓話が待っています。帰国する前から現地での体験を伝える写真や資料、特筆すべき話題、失敗談などをまとめておいてください。次に出発を控えた後輩たちが、皆さんの発言や態度をつぶさに見守っています。派遣学生としての期間を終えた一員として、立ち居振る舞いには常に細心の注意を払ってください。そして帰国後数年間は青少年交換学友（ROTEX 本書6ページ ※3）としてこの交換留学プログラムの運営に深く関わっていただくことになります。貴重な留学経験を活かしての積極的なご協力をお願いいたします。

V. 緊急事態に備えて

1. 緊急時の対応

緊急時の対応を早くする為に、下記のような英文メモを常に身につけておきましょう。

Name (名前): Nationality (国籍): Japan

Occupation (職業): Rotary Exchange Student

Host Rotary Club (受入クラブ): Rotary Club of ●●●●

Counselor's info (カウンセラー)

Name :

Phone :

Address :

Current Host Family (現在のホストファミリー)

Name :

Phone :

Current High School (通学校):

Phone :

In case of emergency, Please contact the information above.

2. 健康管理

健康管理は留学生生活を充実させる意味でも大変重要です。現地に到着後は規則正しい生活のリズムを早く確立してください。体の具合が悪いときはすぐにホストファミリーや高校の先生に申し出てください。また自分に合った常備薬があれば渡航時に持参してください（外国の市販薬は日本人には効果が強すぎる場合もあります）。

以下にいろいろな症状を伝える表現を記しますので渡航前に目を通しておきましょう。

I feel sick.	(気分が悪い)	I have a fever.	(熱がある)
I have a headache.	(頭が痛い)	I have a stomachache.	(胃が痛い)
I have a toothache.	(歯が痛い)	I feel dizzy.	(めまいがする)
I have a pain here.	(ここが痛い)	I have a chill.	(寒気がする)
I have diarrhea.	(下痢をした)		
I still don't feel good.	(まだ気分が悪い)		

VI. 簡単なスピーチ

留学先ではロータリークラブの例会やその他の会合で簡単なスピーチを求められます。

英語のスピーチはシンプルな表現にし、受け入れいただいているホスト国、ホストクラブ、ホストファミリーへの感謝の気持ちを忘れないようにしましょう。あとは自信をもって笑顔で臨めば大丈夫です。

Hello,

My name is Mai Shiraishi from District 2770, Saitama, Japan.

First of all, I would like to say thank you to (受け入れクラブ名) rotary club for hosting me.

My Sponsor Rotary Club in Japan is (日本のスポンサークラブ) rotary club.

The town I live is located (距離) km from the center Tokyo.

Population of city is (人口) and it is famous for (名所・名産等特色).

Speaking about my family, (家族の特色を話す).

My Father, Ichiro(名前) likes to play tennis.

My mother, Yuriko(名前) rides a horse every week.

My brother, Shohei(名前) plays baseball at high school.

I also like playing the piano.

ペットを飼っている人なら犬、猫の名前も言う。

1年間の交換留学の具体的な目標を言う。

例えば文化に興味があるなら

I am very interested in the culture of your country especially (芸術名).

言葉の習慣に興味があるなら

I want to be able to speak (英語なら) English fluently at the end of my stay.

日本文化を伝える親善大使であることも大切ですので

I also want to show Japanese tradition and culture to you.

Finally I would like to try hard to make this wonderful opportunity fun and successful. Thank you very much for all the people who are involved to make this exchange possible.

Thank you, Rotary.

VII. 派遣学生のご両親へ

1. ご両親のオリエンテーション参加

派遣候補生のご両親は渡航前のオリエンテーション（１０月頃～翌年６月頃まで毎月開催予定）への参加が義務付けられています。オリエンテーションを通してこのプログラムに対する理解を十分に深めていただきます。

2. 保護者の負担（費用と保険）

ご両親には費用の負担について理解していただきます。航空チケット（往復交通費）及び現地でのオプションツアーと保険料はご両親の負担となります。また、ブレザーや交換用のピンバッジ等についても負担していただきます。

3. プログラムの規則

相手地区から送られてくる青少年交換プログラムの規則と条件を学生とともに明確に理解してください。地区によっては書面による同意を求められることがあります。交換期間中の旅行に関する規則のように、学生・両親双方に適用される規則もあります。両親が本プログラムの規則を知っていれば、ご自分でうっかり違反したり、学生に違反をすすめたりすることはないはずです。

4. ご両親の訪問

交換留学期間中、ご両親が留学先の学生を訪問することは推奨されません。もし訪問する場合は、交換期間の最後２ヶ月に限ります。その場合、必ずホストクラブの例会日に表敬訪問する予定を日程に組み込んでください。また、ホスト側に余計な出費をさせないように、ホテルもご自分で手配するなどの配慮をしてください。

5. 学生との通信

留学中の学生との過度な電話は、絶対に避けてください。毎日のように電話したため重症のホームシックに掛かり、途中で帰国させられた事例があります。

6. 交換学生（来日学生）の受け入れ

特別の理由がない限り、交換で来日する学生のホストファミリーを数カ月間引き受けていただきます。

VIII. 派遣学生月報送付手順【重要】

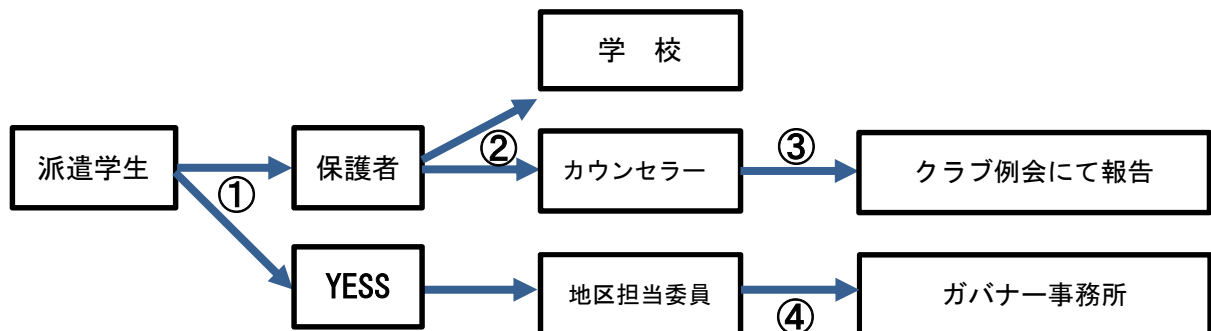
派遣学生は、留学期間中、毎月の月例報告が義務付けられています。

👉【書式-OBS-①】派遣学生月例報告書

月報（月例報告書）送付手順は、以下のとおりです。

送付方法について、学校あて以外は全て「Eメールにファイル添付」で統一してください。

保護者から学校への送付方法は学校の指示に従ってください。



①派遣学生は**毎月末までに**月報を作成し、**PDFに変換したものを翌月5日までに**保護者宛にメールにて送信してください。**同時に、YESの「マンスリーR」にアップロードしてください。※提出期限厳守のこと！**

- ・期限に間に合わないことがないように、毎月早めに着手する習慣をつけましょう。
- ・YESへのアップロードを以て、地区担当委員への提出とみなします。

②保護者は受け取った月報を**毎月10日までに**以下へ送信してください。

◆学校長あて（Eメールまたは学校の指定する送付方法にて）

◆カウンセラーあて（Eメール）

- ・学校へ送付の際は別紙挨拶文を添付してください（Eメールの場合は本文に記載）。また、必ず学校長あてとしてください。

👉【書式-OBS-②】派遣学生月報送付状（学校長宛）

- ・内容を確認し、問題があるようならカウンセラーに報告をして下さい。

③カウンセラーはクラブ例会において派遣学生の月例報告を必ずしてください。

- ・保護者から相談を受けた場合、対応できない内容ならば地区担当委員へご連絡ください。

④地区担当委員は**YESにて月報を確認**のうえ、ガバナー事務所へ送信。

派遣学生月例報告書 2022年 月 分

派遣学生氏名		スポンサークラブ	R C
派遣国		派遣先地区番号	D -
通学高校名		ホストクラブ	R C

カウンセラー

氏 名		年 齢		職 業	
住 所					
T E L		E メール			

ホストファミリー

第1ホストファミリー

ロータリアン

氏 名		年 齢		職 業	
配偶者氏名		年 齢		職 業	
住 所					
T E L		E メール			
家族構成					

1) 健康状態

2) 通学・勉学の状況

3) 家庭生活

4) ロータリーの行事参加

5) その他

6) 今月は何回カウンセラーと会いましたか？ ➡

0回

※毎月月末までに作成のうえ、翌月5日までに保護者あてにメールにて送信すること！

2022年 月 日

〇〇〇〇高等学校

〇〇〇〇校長

ご担当 各位

国際ロータリー第2770地区

2022～23年度 青少年交換派遣学生

保護者 〇〇 〇〇

拝啓

貴校におかれましては、校長先生をはじめ諸先生方にはますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

また、日ごろはロータリー青少年交換プログラムに多大なるご理解ご協力をいただきまして誠にありがとうございます。

さて、青少年交換海外派遣学生 〇〇 〇〇より 〇月度の月例報告書が届きましたので、お届けいたします。

派遣先での日常生活、学校生活、ロータリークラブ関係の行事や、ホストファミリーとの様子などが書かれておりますので、関係者の皆さまのご参考になれば幸いに存じます。

今後ともご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

末筆ながら、皆さま方のご多幸をお祈り申し上げます。

敬具